

測上作は、井上尚弥・ドネア戦の連作だが、すべて敗者たる老雄ドネアに寄り添っていることが心を打つ。

・立ち上がる気持ちに「我」と名を付けてリングシューズの結び終ふ

佐佐木頼綱

冒頭の幸綱先生のラグビーの歌の「吾」に、リングに立つ男の「我」が無条件に重なってきて、雄々しい。

・昨日までの我越えてゆけ槍握る拳を腕に空に振り抜き

佐佐木頼綱

槍投げに投影される「我」。投擲競技は瞬発力を競う。心技体のバランスが僅かでも揺らげば、トップアスリートといえども凡庸な記録にとどまる。敢えてその世界に飛び込まんとする「我」は、雄々しい。

・32キロの中間地点のコンビニで友と分け合ふ葡萄のアイス

牧島 康子

陸上競技は槍投げの八首を含め三十七首。東京マラソンや駅伝の歌が多かったが、市民マラソンを楽しむ牧島作に心が和んだ。

・反り返る岩場を登るハーケンの打つべき位置を探しあぐねつ

由雄 正親

・たつた六百メートルほどの山なのにまだ頂上があんなに遠い

馬場 昭徳

・わたたくしが七月初日に登る山古田の富

土塚八メートルなり 新貝 友子

登山の歌は三十九首。ロッククライミングから近所の富士塚まで実にバラエティに富んでいて、楽しい。

・51の背中見たくて外野席芝生に陣取りビールを飲みき

関沢由紀子

・巨人ファンなれども定年の記念と向かうマリンスタジアム

黒岩 剛仁

野球は四十三首。西武愛の関沢作の目当てがオリックス時代のイチローで、巨人愛の黒岩作が、ロツテというのが面白い。カー

プ愛の西田郁人作、虎兇、甲子園大好き組の作、西武愛をいまだに引きずっている測上作も印象に残った。七年連続Bクラスのわがドラゴンズの歌がなかった、寂しい。

・夏場所で大関昇進を決めた。三月場所で大関昇進を決めた。

中村 雅麿

相撲は三十三首。怪我で引退した横綱稀勢の里を惜しむ歌が多かった。中村作は若手に注目した一首。期待に応え、朝乃山は

野球や相撲の歌は数が多いだけに、いかに個性的な歌を詠むかが勝負になる。自らの眼力で有望な力士・選手を発掘して、リアルタイムで成長を追うというのは面白い、それを楽しみにする固定読者もできる。

・週末をテニスコートで過ごすとき吾は幾たびも飛行機を見る

柴山与志朗

テニスは十六首。掲出歌はミスをするたびに、天を仰いだ結果だろう。ぼくも高校時代にテニスに打ち込んだ。熱中していた

はずが、ふと、女子ハードル選手を追いかけた。おかげでグラランドを十周したが、柴山さんはコウモリも発見しようだ。

他に、運動会二十五首、ラジオ体操十一首、ジョギング・ウォーキング十首、サッカー九首、ゴルフ六首、ピンポン六首、バレーボール五首、ボルタリング五首、バスケット三首、水泳三首、スケート二首、剣道、スキー、スノボ、ランニングマシン、エアロビクス、スクワット、ヨガ、釣り各一首だった。

カウントはしなかったが、ギターの練習、かるた、対戦ゲームなどもスポーツと見なしていいと思う。ぼくも、この種のものなら挑戦できそうだ。

最後に、チャレンジという意味で、スノボとボルダリングの歌を挙げてみた。

・十歳前スキー教えし吾が娘よりスノボ教わる楽しからずや

大浦 敏道

・カラビナでわれとロープを繋ぎ留め十二メートルの壁に真向かふ

木場 陽子